

トピックス

科研費最新動向

○謝辞の記載形式変更

平成28年度交付申請時の「研究者使用ルール」および「2016年度版科研費ハンドブック」において、謝辞の記載形式に変更（JPの追加）があった。具体的には、謝辞に「JSPS KAKENHI Grant Number JP8桁の課題番号」を含めることが求められている。課題番号の前にJPを付し、例えば「JSPS KAKENHI Grant Numbers JPxxxxxxxx, JPyyyyyyyy（英文、複数課題の場合）」あるいは「JSPS 科研費 JPxxxxxxxx（邦文、単一課題の場合）」のように記載する必要がある。平成27年度以前の記載形式（JPが不要）から変更されている点に注意したい。

○予算・公募関係情報

文部科学省の予算関係資料によると、JSTの戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）の29年度予算案は前年度から8億円減（一部プログラムを他事業に整理・統合）の458億円であるのに対し、科研費の予算案は11億円増の2,284億円となっている。一方、同省の第8期研究費部会（第9回）配付資料によると、科研費の新規応募件数は増加傾向（年率3.3%（過去5年））が続いており、平成28年度助成

における新規応募件数が、初めて10万件を超えたとのことである。増大する審査負担の軽減が課題となっている。

また、今後の公募において、研究種目・枠組みの見直し（図1）、「特別推進研究」の見直し（同一研究者の複数回受給を不可とする、など）、「若手研究（A）」の新規公募停止（経過措置を導入予定）、「若手研究」応募要件の見直しなどが予定されている。「若手研究」では、現行の年齢制限（39歳以下）の見直し（学位取得後8年未満への変更を予定）によって、他業種からアカデミアに転向した方など、多様なキャリアパスを持つ若手研究者にもチャンスが広がることが期待される。

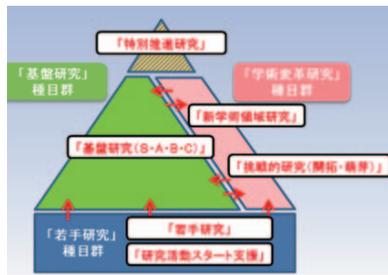


図1 科研費の新たな種目体系のイメージ
（出典：第8期研究費部会（第9回）配付資料4-1：科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について（案）

○審査システム改革2018

2016年6月号（第51巻、6号）の本コーナーでもお伝えした科研費の審査システム改革「科学研究費助成事業審査システム改革2018」について、平成30年度助成（平成29年9月公募予定）から使用される新たな「審査区分表」が決定し、公表された（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm）。2016年4月に実施されたパブリックコメントで寄せられた意見への回答も公表されている。本審査システム改革では、「総合審査方式」が一部の種目に導入されるなど、審査方式の見直しも行われる。「総合審査方式」とは、審査委員全員がすべての応募課題について書面審査を行なった後、同じ審査委員が幅広い視点から議論により審査を行う方式であり、大括り化された審査区分（中区分・大区分）で実施される。より広範な分野の審査委員による多角的な議論によって、優れた課題が見いだされることが期待されている。上記の「特別推進研究」、「若手研究」の見直しなども含め、例年9月初めに公表される科研費公募要領に注目したい。

なお、「科研費に関するご意見・ご要望受付窓口」が、日本学術振興会のウェブサイト（<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>）上に設置された（青色の受付窓口ボタンより専用フォームにリンク）。ご意見・ご要望のある方は、上記リンク先をお訪ね頂きたい。

（協会誌編集委員会）